

指導資料

鹿児島県総合教育センター

家庭第28号

- 小学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成14年11月発行

基礎・基本の定着を図る小学校家庭科の学習指導

——「生活に役立つ物の製作」の指導を中心に——

家庭科は，児童が5年生になって初めて出会う教科であり，学習することが衣食住などの身近なものであることから，多くの児童が意欲的・積極的に取り組んでいる。しかし，児童のそれまでの生活経験は様々で，生活に対する認識や身に付けている技能の程度も差が大きいのが現状である。

学習指導要領では，ゆとりの中で生きる力をはぐくむことをねらいとし，厳選された基礎的・基本的内容について，確実に身に付けさせることを求めている。

ここでは，小学校における家庭科の基礎・基本の定着を図る学習指導について，「生活に役立つ物の製作」の指導を中心に述べる。

1 家庭科における基礎・基本

家庭科の学習指導要領は，小学校・中学校を通して基礎・基本が確実に身に付けられるように内容の改善が図られ，小学校段階で重点を置くものについて「小学校学習指導要領第8節『家庭』」に示された。その全体が基礎・基本である。

なお，基礎的な知識と技能については，「日常の生活に必要なもの，家庭生活に応用・発展できるもの，生活を工夫・創造し

ていく基盤となるもの」としている。

基礎・基本を確実に身に付けさせるためには，学習対象が家族と家庭生活であるという教科の特性を考慮し，児童の日常生活との関連を図りながら，実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ，繰り返して学習することができるように題材や指導計画を工夫する必要がある。また，作る喜びや充実感を味わえるようにするとともに，児童がそれぞれの課題に応じて選択できる学習活動を取り入れることが大切である。併せて，家庭との連携を図り，学習したことを日常生活に生かせるように配慮する必要がある。

2 「生活に役立つ物の製作」の指導

本内容では，生活に役立つ物を，布を用いて製作することを通して，「縫う」など製作に関する基礎的な技能を身に付け，日常生活で活用することができるようにする。

「生活に役立つ物」としたことで，単に作品の製作のみではなく，児童が日常の生活を振り返り，何を製作すれば家族が快適に過ごせるか，どのように作れば生活が便利になるかを考えることをねらっている。

そのことで、それぞれの課題をもって製作に取り組み、製作品を活用して、生活をよくしていこうという態度を育てる。

(1) 製作に関する基礎的な知識・技能等

本内容では、特に基礎的な技能の習得をねらいとしているが、具体的な事項を整理すると以下のようにまとめられる。

製作に関する基礎的な知識・技能等

必要とする知識	<ul style="list-style-type: none"> ・布の特性と扱い方 ・製作に必要な材料や用具 ・ゆるみや縫いしろの必要性 ・縫う箇所に応じた適切な縫い方 ・作り上げる過程や作業の順序 ・手縫いやミシン縫いの方法と特徴
身に付ける技能	<ul style="list-style-type: none"> ・布の扱い方 ・裁断の仕方 ・手縫い ・ミシン縫い（直線縫い） ・製作に必要な用具の適切な扱い方
創意・工夫するにこと	<ul style="list-style-type: none"> ・製作手順や製作時間の見通しをもち、製作計画を立てること ・目的に合わせて大きさや形を工夫すること ・目的に合わせて布や縫い方を工夫すること ・目的に合わせて材料や用具を準備できること

これらの基礎的な知識・技能等を確実に身に付けさせるためには、適切な題材設定や段階を追った繰り返しの学習など、2学年の中で計画的に学習させる必要がある。

題材については、「布を用いる」こと以外は従前のような作品の指定はなく、児童の実態に合わせて幅広く題材を設定できる。

(2) 指導計画の作成及び題材構成の視点

指導計画の作成に当たっては、基礎的な知識・技能等の習得を図るために、繰り返

し学習をすることができるように配慮する。

また、基礎的なものから応用的なものへ、平易なものから難易度の高いものへ、要素的なものから総合的なものへと段階的に発展させ、児童が身に付けたものを次の題材に生かしながら学習を進められるように工夫する。

さらに、児童がそれぞれ選定した課題を主体的に解決できるように、問題解決的学習の場面を取り入れる。

題材設定に当たっては、以下の視点から適切な題材を設定し、効果的な指導を図る。

- ・ 児童自身が必要性を感じられるもの
- ・ 児童自身の創意工夫の余地があるもの
- ・ 身に付けるべき基礎的な知識や技能を含み、繰り返し行うことができるもの
- ・ 製作する中で、家族や自分の生活を合わせて考えることができるもの
- ・ 作品が実生活に生かせるもので、更なる応用・発展が期待できるもの

(3) 指導上の配慮事項等

ア 材料の選定

製作の材料については、布を用いることが指定されている。布の特性や他の材料との違い、扱い方について理解させることができるとともに、布を扱うことが初めての児童もいることを考慮して、扱いやすい布を用いる。具体的には、次の点などを考慮する。

- ・ 裁断やしるしつけが容易なもの
- ・ 二枚合わせて縫えるもの
- ・ しっかりした織りで、針の通りがよいもの
- ・ 縫いしろや布端の始末を要するもの

イ 標本の活用

製作の過程での児童のつまずきを自ら解決させる方法として、各種標本が有効である。部分標本や拡大標本、段階標本等を適切に準備することで、児童が自ら手に取り確認しながら課題を解決する方法を探ることができる。

ウ 用具類の安全な取扱いと保管

製作に用いる用具類については、針やはさみ等危険を伴うものも多いため、適正に整備、保管し、安全で適切な使い方を周知させる。

3 「生活に役立つ物の製作」の指導の実際

(1) 段階を追って製作させる題材構成例

題材 で手縫いの基礎を学習し、題材 では更に繰り返して手縫いで製作させることで、小学校で求められている手縫いの技能の確実な習得を図る。さらに、題材 で、ミシン縫いを含めて目的に合わせて工夫した作品を製作させる。

(2) 工夫して作る段階の展開例

共通の題材としてエプロンを設定しているが、児童はそれぞれ自分の家族の生活を見つめ、何が必要かを考えて課題を設定し、習得した技能を生かしながら、一人一人が工夫して解決を図る問題解決的学習を展開する。児童の主體的な考えを生かすことを大切にしながら、「生活に役立つ」という視点をしっかり押さえ、あまりに高度な物や複雑になりすぎる場合には、児童の技能に合った物になるよう助言する。

題材の導入としてエプロンの基本的なことについて考えさせ、課題を設定し解決を図る際の考える視点とする。

また、題材の終末では「布を活用した生活」について広く考えさせ、習得した知識や技能を生活の様々な場面に生かすことを考えさせて、住生活などの他の学習内容とも関連させてまとめる。

<表1> 「生活に役立つ物の製作」題材構成例

(第5・第6学年)

題材	学習の段階	題材名の例	基礎的な知識・技能等	作品例
6時間	<p><初めて作る段階></p> <ul style="list-style-type: none"> 製作の基本である手縫いの手法を用いて簡単な作品を製作する。 	針と糸と布で作ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> 布の特性 布の裁断 手縫い(なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、玉留め、玉結び) 製作に必要な用具の扱い 	<p>おもしろマグネット 愉快的なマスコット 楽しいワッペン いろいろお手玉 アイデアコースター 等</p>
8時間	<p><繰り返し作る段階></p> <ul style="list-style-type: none"> 前回学習した手縫いの手法を繰り返して用いて製作することで、技能の習得を図る。 	学校で役立つものを作ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 裁断 手縫い ゆるみ、縫い代 縫い合わせ方 目的に合った大きさ等 製作に必要な用具の扱い 	<p>ランチョンマット ポケットティッシュカバー 何でもぶくろ 等</p>
14時間	<p><工夫して作る段階></p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した縫製技能や製作に関する知識を駆使して、目的に合った作品を考え、計画し、製作する。 	作って贈ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 手縫い ミシン縫い 目的に合った形、大きさ 目的に合った布、縫い方 製作計画の立て方 製作に必要な用具の扱い 	<p>アイデアエプロン クッションカバー ウォールポケット アイデアバッグ 等</p>

<表2> 「工夫して作る段階」の展開例

1 題材名「作って贈ろう！アイデアエプロン」（全14時間） 2 題材のねらい これまでに習得した製作に関する知識や技能を生かし、ミシン縫いの手法も取り入れて目的に合ったエプロンを工夫して製作することで、基礎的な縫製技能等の定着を図る。併せて、家族や家庭生活に目を向け、学習したことを生活に生かそうとする態度を育てる。	
<小題材……学習の流れ> (時間)	<指導上の配慮事項等>
エプロンを研究しよう (1)…………… ・目的、用途、形、材料などの視点	・様々な実物見本を示し、使いやすいエプロンの条件等について考えさせる。
たれのためにどんなエプロンを作る？ (1)…………… ・ガーデニング好きのおばあちゃんのために丈夫なエプロン ・お母さんの水仕事のためにタオル付きのエプロン ・お父さんの日曜大工のためにポケットたくさんエプロン ・小さな妹のために食食用楽しみエプロン など	・あらかじめ、家族の生活等を観察させて、誰に何が必要か考えさせておく。 ・目的を定めて計画させる。 ・必要に応じて助言する。 ・児童の技能に合ったものにする。
形や大きさを決め、スケッチしてみよう (0.5) (1)…………… ・幅、長さ、ポケット、ひも、付属品など	・あらかじめ必要な寸法を測らせておく。 ・どのような物がよいか希望を聞かせておく。
製作計画を立てよう (0.5)…………… ・布と糸は、縫い方は、順番は、 など	・目的に合った布の選び方を理解させる。 ・必要量の考え方を理解させる。 ・布は、可能ならばそれぞれ準備させる。
ミシンの達人になろう (3)…………… ・基本操作 ・試し縫い作品の製作	・ミシンを自由に使うことで、機能や操作に慣れさせる。 ・花瓶敷きなど小さな作品を作りながらミシンの扱いに習熟させる。
さあ、製作しよう (6)…………… ・裁断 ・縫製 ・仕上げ	・布目の方向に注意させる。 ・適切な縫い方になるよう助言する。 ・段留線標本・部分標本等を活用する。
作品発表会 (0.5)…………… (1)……………	・使用目的・工夫点なども発表させる。
家族にプレゼントし、感想を聞こう (0.5)……………	・プレゼントカードなども工夫させる。
布を活用した生活について考えよう (1)……………	・様々な角度から発表させ考えを広げさせる

小学校「家庭」・中学校「技術・家庭（家庭分野）」・高等学校「家庭」と学びすすんでいく家庭科が目指すものは、「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」ことである。

小学校では、その入り口として「生活に必

要な知識と技能を身に付け、生活的な自立の基礎を培うとともに、家族の一員としての自分を知り、家族とかわりながら、家庭生活を楽しく、よりよく工夫する資質や能力」を実践的・体験的な学習を通して育成したい。

【参考文献】

文部省「小学校学習指導要領解説家庭編」平成10年12月
 文部省「初等教育資料」平成12年9月 大日本図書
 （第三研修室）